

万博公園周辺地区

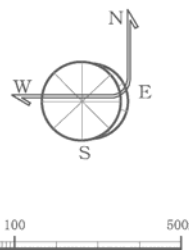


背景

- 万博公園周辺地区は、万博記念公園がエリアの大部分を占めており、万博記念競技場など広域的な集客力が高い施設もあるため、地域外から来られる方が多数います。
- そのため、各施設設置管理者と連携を図りながら、地域住民・障害者などの方々の意見を踏まえながらバリアフリー化を進めていくことが必要とされています。

基本的な方針

- 生活関連施設間のバリアフリーネットワークの構築を図ります。
- 安心・安全で、わかりやすい歩行空間の形成をめざします。



建築物



- 誰もが安全で安心して移動及び利用できるよう、出入口、廊下、階段などのバリアフリー化に努めます。

歩道



- 誰もが安全で安心して移動できるよう、バリアフリー化に努めます。
例)歩道の有効幅員の確保。段差・勾配の解消。バリアフリー化に配慮した路面舗装。照明施設の整備。案内標識の整備。視覚障害者誘導用ブロックの設置。

心のバリアフリー

○心のバリアフリーをめざして

吹田市では「人を思いやり、助け合う」ことがバリアフリーを進める第一歩であると考え、「だれもがやさしくなる」吹田のまちづくりをめざしています。
各事業者が駅や道路などのバリアフリー化事業を進めても、利用できなければ意味のないものになってしまいます。一人ひとりがお互いを思いやり、マナーの向上やサポートの実施に努めることがバリアフリー化に大きな役割を果たします。



歩道上の迷惑駐輪は、視覚障害者や車いす利用者にとってとても危険です。



駐車車両が歩道に乗り上げていると車いす利用者や視覚障害者だけでなく、誰もが歩道を使うことができません。



せっきくの視覚障害者誘導用ブロックも、迷惑駐輪のために使うことができません。

○心のバリアフリーの取り組み

例えば歩道上の放置自転車や商品、看板などは、道路を通行する人にとって迷惑となるだけでなく、目の不自由な方が通行した場合には事故を起こす可能性もあります。また、障害者用駐車スペースに障害を持たない方が車を駐車すると、本当にそのスペースを必要とする方が使用できなくなります。
これらを解消するためには、一人ひとりの「心のバリアフリー」が重要です。そして「心のバリアフリー」を広げていくためには、「他人事」ではなく「自分の問題」としてとらえ、考え、行動していく必要があります。

困っている人を見かけたら声をかけて、お手伝いしましょう。

歩いている人の邪魔にならないよう、自転車は決められた場所に停めましょう。



心のバリアフリーの取り組み例

積極的な取り組み

- 高齢者・障害者などにとって、バリアとなるものについて理解を深める。
- 車いす利用者が階段や段差を上げずに困っていたら、声をかけ、お手伝いする。
- 視覚障害者が交差点を渡ろうとしていたり、電車に乗ろうとしていたら、声をかけ、お手伝いする。

マナーの向上

- 迷惑駐輪をしない。
- 迷惑駐車をしない。
- お店の商品を歩道上に置かない。

用語の解説

- ※1 生活関連施設：高齢者、障害者などが利用する施設の内、規模や利用状況などの地域実情を勘案し選定された施設で、移動等円滑化のための事業実施の必要性が高く、可能性がある施設または既に移動等円滑化された施設を位置づけたものです。誰もが安全で安心して移動できる施設のバリアフリー基準を満たすよう整備に努めます。
- ※2 生活関連経路：主に駅と生活関連施設※1を結ぶ経路の内、移動等円滑化のための事業実施の必要性が高く、可能性がある経路、または既に移動等円滑化されている経路を位置づけたものです。平成22年(2010年)を目標に、誰もが安全で安心して移動できる歩道のバリアフリー基準を満たすよう整備を進めます。
- ※3 準生活関連経路：主に駅と生活関連施設※1を結ぶ経路の内、移動等円滑化のための事業実施の必要性は高いが、事業実施が困難な経路を位置づけたものです。中長期的には基準に近づけるよう整備に努めます。